



矢萩 保雄

一般社団法人東北経済連合会 政策会議副議長

全国産業安全衛生大会を振り返って

中央労働災害防止協会主催の第75回全国産業安全衛生大会が10月19日(水)から21日(金)までの3日間、17年振りに仙台で開催されました。本大会は安全衛生に携わるあらゆる人が一堂に会する国内最大のイベントであり、全国各地から1万人を超える参加がありました。

大会テーマは、「築こう未来へ 安全と健康でつなぐ 復興の架け橋」とし、通常のシンポジウムや講演、事例報告に加え「防災・危機管理」分科会が新設され、東日本大震災から学んだ多くの教訓も全国に発信されました。特に講演の中では東北地方整備局長による東日本大震災時の道路啓開「くしの歯作戦」の報告や、当時の東北電力女川原子力発電所長(現東北電力副社長)が震災時の原子力発電所における対応を語った「現場からの報告」等が大きな関心を集めていました。

宮城労働基準協会は、実行委員会事務局として平成26年1月より足掛け3年、準備を進めてきました。ここ1年間では事務局レベルの会議を11回、行政や各企業の代表が集まる実行委員会を2回開催し、大会期間中は各企業・団体からの運営担当者延べ約370名がボランティアで支える体制で大会に臨みました。

運営に当たっての合言葉は「震災から5年、全国の方々からいただいた励ましや支援に対するお礼も込めて、東北らしい誠実であったかい対応で参加する方々を迎えよう」でした。

約6,000名が参加したカメイアリーナでの全体集会には村井嘉浩宮城県知事、奥山恵美子仙台市長にもご出席いただき、全国の方々に対して震災からこれまでの支援に対するお礼も含めた暖かいご挨拶をいただきました。

本大会を振り返ってみますと、主催者においては東北の置かれている状況を的確に把握し、大会テーマも含めて丁寧に企画を作っていただきました。また主役である東北を含め全国から参加された皆さんには、東日本大震災からの教訓をはじめ最新の安全・衛生の研究成果について熱心に聴いていただくとともに、6回実施した被災地ツアーにも参加して復興の状況を見ていただきました。

昨年開催された名古屋大会時の実行委員の方も、仙台大会の応援のために多くの方々とともに参加され、「東北の方々には真面目だし、大会にまとまりがあるね」と感想を話されていました。

私たち実行委員会のメンバーは全国大会の準備・運営を通して、団結することの大切さや、思う気持ちは相手に通じること、また、東北人の素晴らしい気質に改めて気づくとともに、本大会を契機に全国の安全文化がさらに向上することを願っています。

(宮城労働基準協会会長・株式会社ユアテック 取締役会長・やはぎ やすお)